

サークル紹介

相撲同好会

どすこい6人衆



文・松井正冬
理学部2年

わが相撲同好会は、今年部員〇人の状態から始まった。唯一の四年生が卒業したためだ。

その後部員が入り、廃部の危機はギリギリ免れたものの、練習は二人か三人で行うしかなく、広大の中で最も惨めなサークルの一つだった。

だが、十一月四日の全国大会では、他の部から助っ人を頼んだりして何とか五人揃えることができ、復活した広大相撲部同好会の初めての試合として、十月十五日に因島で行われた宮相撲が選ばれた。これは全国大会への前哨戦でもあった。

団体戦の結果は、初戦で地元消防団チームに三勝二敗で勝ったものの、二回戦は相撲道場のチームに当たり一勝四敗で完敗。引き続いての三人抜きや五人抜きでは誰一人懸賞を持ち帰れず、自分たちの未熟さを思い知らされた。だが、試合の雰囲気を知るとは、土俵に上がったことのない素人ばかりのわが

サークルにとって価値あるものとなった。その後の約二週間、今までの何倍も稽古に励み、確かな自信をつけて、いよいよ全国大会を迎えた。全国大会は、実力順に三部に分かれて争い、広大は一番弱いCリーグであったが、Cリーグといえども小兵の多い広大にとって勝つのは難しい。

初戦は、Bリーグから落ちてきた慶應大学。これにいきなり五戦全敗し不安な空気が広がるが、二戦目の関西大学戦では四勝一敗で快勝し、その勢いで三戦目の九州産業大学戦も四勝一敗で下し、結局、二勝八点を挙げた。Cリーグ二十一校中九位の成績であった。これは、復活したばかりの広大相撲同好会にとって、かなり良い成績と言えるであろう。

この全国大会を機に各方面から取材を受け、もはや最初の惨めさは完全に払拭された。これから大きく飛躍していききたい。
(まつい・まさふゆ)

アクリル水彩同好会

アクリル水彩同好会のサークル紹介



代表 富本博之
理学部3年

私たちのサークルは、約六十人の絵を描くのが好きな人々の集団です。良く言えば個性のある、悪く言えば変な奴が多少混じっています。みんな楽しい時は暴れるし、まじめにする時には真剣にサークルに取り組んでいます。週に二回の練習会で腕を磨き、週に一回の例会で、より良いサークルをつ

くるために話し合います。そして年に一度一月に、市内で会場を借りて学外展を催し、今までの成果を一般の人に見てもらいます。私が言うのもなんですが、みんな根はまじめで良い人たちがばかりだと思います。まずは、水彩展を見に来てください。
(とみもと・ひろゆき)